

Book Review

定本 M-GTA

実践の理論化をめざす
質的研究方法論

著：木下康仁



A5判・400ページ

定価：3,520円

(本体3,200円+税10%)

発行：医学書院 (03-3817-5650)

「なるほど!」という理解とともに M-GTAと質的研究を学ぶ

評者

グレッグ美鈴

神戸市看護大学看護学部教授

グラウンデッド・セオリーは、Glaser版、Strauss版、M-GTAなどがあって、何だかとてもわかりにくいと思っていた。そして最近、看護学の論文でM-GTAを用いた研究をよくみるようになり、一度きちんと理解したいと思って手に取った。Part 1からPart 4の4部構成、13のChapterから成り、「定本」のタイトルがふさわしいと思う内容である。

これまでも、木下先生が出版されたグラウンデッド・セオリーに関する書籍を読んではいったものの十分に理解できていなかったオリジナル版GTAとの違い、またM-GTAとは何なのかなどが、Part 1を読んで自分の頭の中が整理され、「あー、なるほど!」と思うことが多かった。

Part 2では、M-GTAの考え方、特に具体的方法について、これでもかというほど研究例を用いて丁寧に説明されている。実際にM-GTAを使う際には、とても役立ちそうである。研究に必須の分析ワークシートを使う上で読者が疑問に思うであろうことについても、具体的な説明がある。そして概念生成が容易なものから困難なものまで例示され、概念比較からカテゴリーの生成方法、結果図とストーリーラインの作成についても、研究例を用いながら詳細に解説されている。これらは自分で実際にやらないとわからない部分もあると思うが、読むだけでも十分に理解しやすく、深く納得できる。

Part 3のM-GTAを学ぶ方法として、グループワークの提案は興味深い。また「質的研究とM-GTA」のPart 4では、理論と実践に関わる研究を3つのタイプに分けた説明があり(Chapter 11)、実践の学問である看護学研究は何をめざすべきなのか、看護学における理論とはどうあるべきなのかを考えさせられた。Chapter 12では質的研究論文の査読について悩みがちな内容が、すっきりと整理され、解決の糸口が示されている。

M-GTAを使って研究したい人は、4つのPartからなる13のChapterを全部読んでから、分析方法が説明されているPart 2(5つのChapter)に戻り、研究の進度に合わせて各Chapterを読むとよいと思う。きつと研究のプロセスがより具体的にイメージでき、さらに研究に対して前向きな気持ちになれるはずである。しかしながら、どの質的研究の本もそうであるが、この本さえ読めば研究ができるというものではないことは頭に入れておきたい。

「はじめに」では、質的研究に関する専門書としても成り立つように工夫したと書かれているが、確かに、全体を通して質的研究そのものを学んだ／考えた本であった。M-GTAを学びたい人だけでなく、質的研究に興味のある人にぜひ読んでいただきたい。